

旭 伝 院 焼津市保福島

現住 三世 田中慶道

開 創 寺伝によれば元禄年間、観翁鯨公師が林叟院八世山齡末淵師を開山に勧請して草創したと伝えられる。山齡師は元禄七年に円寂されているから、寂後師の徳を景仰して勧請したもののである。

法地起立

大正十二年、眠芳惟安師は京都、安泰寺三世として紫林学堂に在り、眠蔵参究者を主と

する青年学徒の育成に努められたが、齡も還暦に近く且つ病氣等疾の目的をもつて、温暖の地である旭伝院に転住した。林叟院三十四世鈴木祖温師は、厚く遇し、法地に進めて師を御師とした。

眠芳惟安師

眠芳惟安師は俗姓岸沢氏、名は計之助。埼玉県北埼玉郡星宮村の人。慶応元年七月の出生。教員を志し、師範学校に学び、明治十七年には学校長を拝命した。

二十八才の頃、正法眼蔵開講の新聞広告に氣をとめ、たまたま東京浅草永見寺で西有穆山禪師の正法眼蔵の提唱会に出遇し、熱心に聴講。遂に意を決し、明治三十年九月、老母、妻女を説き仏門に入る。即ち西有禪師の得度を受け、計之助を惟安と改めた。



旭 伝 院

明治三十七年 埼玉県清法寺に住職し、十四世をつぎ、同四十五年 兵庫県永源寺二十四世に転ず。師五十一才の春、弁道語を提唱したが、これが師の正法眼蔵開講の最初である。大正八年五月から永平寺眼蔵会講師として登山。その後毎年五六の二か月間、これに当り、十余年間勤める外、全国各地に眼蔵会講師として招聘を受けた。師は正法眼蔵の註解では日本の存在で、生死卷葛藤集・菩提薩埵四摂法葛藤集・行持卷葛藤集・現成公案葛藤集等が生前出版された。今回正法眼蔵九十五卷全巻の講述記が出版されるといふ。昭和三十年三月二十六日、九十一才で円寂されたが、寂後旭伝開山眠芳惟安和尚語録、並びに五位顯訳元字脚葛藤集・参同契葛藤集宝鏡三昧歌講話、其の他数種が出版された。

Taisho 12 nen ni
Hochi ~~not~~ Kaesar
Kisho Jan

Soon invited Kisho Tawa
to Gyokuden-in

Before that at an taiji
went to Shizuoka
for health

28 + 29th
Kaada

Ho + SW
11/98